

ゆび
柚比遺跡群 3

鳥栖市教育委員会



平原遺跡遠景（東から）



甕棺墓地の発掘風景（安永田遺跡）

柚比遺跡群では、鳥栖北部丘陵新都市開発に伴い、約250haのうち約65haについて埋蔵文化財発掘調査が平成3年度から行われています。発掘調査は平成11年度までおこなわれる計画です。

遺跡群内には約30ヶ所の遺跡があり、平成8年度までに、弥生時代から古代までの住居跡約1200軒、弥生時代の甕棺墓約1000基、古墳約30基を調査しました。その他にも柚比本村遺跡出土の「赤漆玉鈿装鞆付銅剣および銅剣6本、鉄剣1本、ガラス製勾玉1」が国重要文化財の指定を受けています。平原遺跡では吉野ヶ里遺跡と同時期に存在した環濠集落が見つかり、また大久保遺跡ではこれまで明らかにされなかった土器を焼いた跡が確認され、考古学的に大きな成果をあげています。引き続き調査は行われますが、これからも様々な発見が期待されます。

具体的な成果についてはNo.4以降の解説シートでふれますが、ここでは遺跡の調査の流れについて簡単に紹介していきます。

発掘調査の流れ



遺構^{けんしゆ}の検出

遺構のある深さまで土を掘削機や人力で掘り下げます。その後、かき板とねじり鎌という道具を使い、遺構が残っている面を丁寧に削り、微妙な土の色やかたさを見極めながら遺構のある場所を見つけていきます。そして色の違う場所に線を引いていきますが、この色の違う所が遺構となります。これら一連の作業を「遺構検出」といいます。



遺構の掘下げ

遺構検出の後、これらの掘下げを行います。遺構には様々なものがありますが、基本的に掘り方は同じです。例えば住居跡を調査する場合、その住居がどのような状態で埋まっていたか確認してから掘り下げます。すると土器や石器・鉄器など生活用具が出土してきます。そして当時生活していた床面まで掘り下げを行い、これでこの作業が終了します。



遺構の写真撮影・実測

発掘した遺跡は記録に残さなければなりません。そこで写真撮影および実測を行います。写真は遺構を個別に写すものと遺跡全体を撮影する空中写真の2種類があります。そして実測はさまざまな方法がありますが、ほとんどの場合、人の手でいきます。たくさんの土器や古墳などの実測はかなりの時間と手間を要します。



遺物の復元

遺跡から持ち帰った遺物は整理をおこないます。まず、土が付いているので水などできれいに洗います。その後さまざまな工程を経て、ばらばらになっている遺物をひとつひとつ合わせていき、復元します。このあとは遺物の実測・トレース・写真撮影などといった作業をおこない、調査の成果をまとめた報告書を作成します。